

# プロジェクト管理システム

亜細亜大学 笠井 賢治

はじめに

経営戦略を具体的に実践するためのプランニングツールとして、BSC (**Balanced Scorecard**)が、注目されているが、そのBSCを具体的に実行していくためには、経営戦略を達成するためのミッションに沿った、いくつかのプロジェクトが計画され、その一つ一つのプロジェクトが目的通り達成されて、はじめて経営戦略の目的が遂げられるのではなからうか。

これまで、プロジェクト管理というと、土木・建築やエンジニアリング業界ではその必要性に応じて研究され、実績があるが、その他の業界では、組織横断的なアドホックな組織としてのプロジェクト・チームとか、ソフトウェア開発プロジェクト、研究開発プロジェクト、社内改革プロジェクトという言い方はされているが、プロジェクトを経営戦略との関連に置いて、明示的に管理することはあまりなされていなかったのではなからうか。

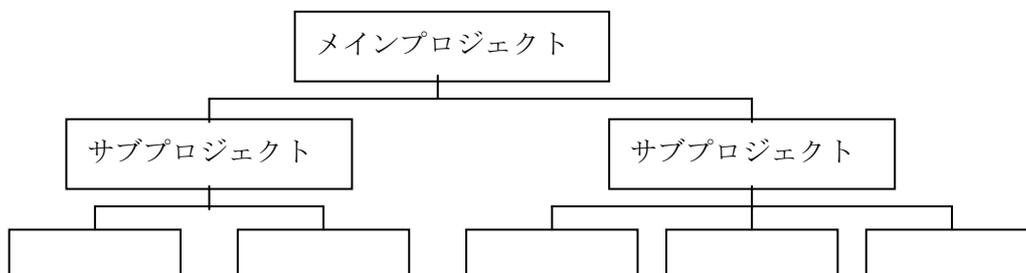
本報告では、近年急速に変わりつつある、ISO (**International Organization for Standardization**)の、企業全体の戦略的見地から品質管理の延長活動としてのプロジェクト管理システムを参考にしながら、プロジェクト管理の方法と統合化の仕組みを考えてみたい。

## 1. ISO10006 におけるプロジェクトの定義

「一連の調整され管理された、開始日と終了日のある活動からなり、時間、コストおよび経営資源の制約を含む特定の要求事項に適合する目標を達成するために実施される特有のプロセス」

- ・ プロジェクトには、達成すべき固有のミッションがある。
- ・ プロジェクトは、様々な分野の人々の共同活動と相互作用によって進められる。
- ・ プロジェクトには、予算、人材、時間、法規制、環境保全などの制約がある。
- ・ プロジェクトには、利害関係者の満足が求められる。
- ・ プロジェクトには、始めと終わりがある。

## 2. プロジェクトの構造



## 3. プロジェクト管理の重点移動

- ・ プロジェクト実施コントロールから品質管理へ
- ・ 品質管理の延長としての戦略的管理へ

#### 4. プロジェクトの管理

	顧客志向	リーダーシップ	人々の参画	プロセスアプローチ	システムアプローチ	継続的改善	意思決定アプローチ	サプライヤーとの互恵
戦略立案								
相互依存マネジメント								
範囲マネジメント								
時間マネジメント								
コストマネジメント								
経営資源マネジメント								
要員マネジメント								
コミュニケーションマネジメント								
リスクマネジメント								
購買マネジメント								

#### 5. 進捗評価

##### 目的

- ・ 実施した業務の品質計画書に対する適合評価に使用する，各プロセスが整合しているかどうかを評価する。
- ・ プロジェクトの目標に悪影響を及ぼす活動と結果を評価する。
- ・ 進捗評価により，残務業務を把握する。
- ・ 逸脱とリスクを明確にして，問題解決に利用する。
- ・ 進捗評価により，継続的改善に有用な情報を提供する。

#### 6. プロジェクト完了時の確認項目

- ・ 製品品質⇨ プロジェクトの品質計画は，目的を達成するうえで有効であったか。品質計画に従った活動が行われたか。
- ・ 戦略決定⇨ 戦略決定は適切であったか。顧客満足を達成したか。
- ・ 相互依存性⇨ プロジェクトの相互依存性マネジメントは適切であったか。不整合や対立は発生しなかったか。
- ・ 範囲⇨ 範囲に関するマネジメントは適切であったか。範囲は明確にされ，必要な活動がすべて行われたか。
- ・ スケジュール⇨ スケジュールに関するマネジメントは適切であったか。
- ・ コスト⇨ コストに関するマネジメントは適切であったか。
- ・ 経営資源⇨ 経営資源に関するマネジメントは適切であったか。
- ・ 要員⇨ 組織間の連携は良好であったか。組織構造や要員の責任・権限は適切か。